

令和元年6月20日現在

機関番号：62618

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02552

研究課題名(和文)19世紀半ば～20世紀半ばロシア北東地域のユカギール語資料に関する言語学的研究

研究課題名(英文)A linguistic study of Yukaghir language materials collected between the mid-19th and mid-20th centuries

研究代表者

長崎 郁(Nagasaki, Iku)

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・理論・対照研究領域・プロジェクト非常勤研究員

研究者番号：70401445

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、シベリア北東部で話されているユカギール語に関して、古い言語資料の調査・整理・分析を行い、現代語との比較から文法の変化を明らかにすることを目的として行われた。18世紀半ばから20世紀初頭にかけて記録された語彙・例文・テキストをコンピュータで入力し、文法研究に利用できるよう文法情報を付与した。関係節または名詞化のマーカとされる -JE の用法、名詞化節の名詞項・一致に見られるアラインメントのタイプ、焦点構文という3つの文法現象に関して現代語と、それよりも約100年前のユカギール語との比較を行い、その差異を洗い出し、ユカギール語に生じた文法上の変化を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ユカギール語はシベリア(ロシア)北東部で話されている系統不明の言語であり、日本を含む北アジア諸言語の類型特徴の解明、シベリアにおける諸民族の接触過程の解明のために、重要な役割を持つとされる。しかしながら、ユカギール語の文法研究は主として共時的な観点からのみ進められてきており、文法変化に注目した研究はほぼ手付かずであった。本研究では、古い原文資料の調査・整理・分析と現代語との比較を通して、ユカギール語に生じた文法変化を明らかにした。このような研究はこれまでのユカギール語研究、ひいてはシベリア諸言語の研究では行われておらず、その成果は同地域の言語研究の進展に大きく貢献するものである。

研究成果の概要(英文)：This research project was organized with the purpose of a survey and collection of old Yukaghir language materials, as well as research on historical change on the grammar of the language. The lexical, sentential, and textual materials collected between the mid-18th and the mid-20th centuries were digitized and grammatical, especially morphological information was annotated on the data. The project also worked on the grammatical changes on relativization/nominalization, alignment type, and focus construction based on the comparison of the earlier data with the present-day data.

研究分野：言語学

キーワード：ユカギール語 言語学 ロシア 古アジア諸語 文法変化 焦点 名詞化 能格

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

ユカギール語はシベリア(ロシア)北東部で話されている系統不明の言語であり、日本を含む北アジア諸言語の類型的特徴の解明、シベリアにおける諸民族の接触過程の解明のために、非常に重要な役割を持つとされる。しかしながら、ユカギール語の文法研究は主として共時的な観点からのみ進められてきており、文法の変化に注目した研究はほとんど手付かずである。ユカギール語の言語資料の収集は、ロシア国内またはロシア国外の旅行者、民族学者・言語学者によって行われてきており、19世紀半ば以降、100年以上の期間に収集された一定量の資料が存在する。応募者は、これらをできる限り収集・整理し、その年代ごとの比較および内的再構からこの間に生じた様々な文法的な変遷を明らかにしてゆくような研究が必要であり、そして十分に可能であると考え、本研究課題を計画した。

2. 研究の目的

- (1) 本研究課題は、これまでのユカギール語研究の中で別個に行われてきた通時的研究と共時的研究を統合し、文法構造の歴史的変遷と類型的特徴を明らかにしようとするものである。このような研究はこれまでのところ行われておらず、本研究の成果は個別言語としてのユカギール語研究に大きく貢献することが見込まれる。
- (2) 通時的研究と共時的研究の乖離はユカギール語のみならず、北アジアの多くの言語に共通する研究状況でもある。本研究課題は、他言語の研究に対してもモデルケースとして貢献することを目指す。

3. 研究の方法

- (1) 19世紀半ばから20世紀半ばに収集されたユカギール語資料の調査と整理を行う。具体的には、資料を電子化して文法注釈を付けた上でコーパスを構築し、文法研究のための基盤づくりを行う。
- (2) (1)に加えて、ロシア科学アカデミー東洋写本研究所(サンクト・ペテルブルク)などにおいて未刊資料の調査を行う。
- (3) コーパスを構築しながら、古い時代のユカギール語の文法の分析を進め、さらに現代のユカギール語との類似点・相違点を洗い出し、文法上の歴史的変遷を明らかにする。

4. 研究成果

- (1) 平成27年度
 - 研究開始前に入手していた19世紀末のテキスト約100編(Jochelson 1900(.))、20世紀半ばのテキスト2編(Krejnovich 1982(.))、18世紀末から19世紀半ばに収集された語彙リストと例文(Schiefner 1859, 1871a, 1871b (A. Schiefner, Über die Sprache der Jukagir; Über Baron Gerhard von Maydell's jukagirische Sprachproben; Beiträge zur Kenntnis der jukagirischen Sprache))を露訳または独訳とともにコンピュータで利用できる形で入力し、形態情報の付与および和訳の作業に着手した。
 - 本研究開始以前から着手していたテーマである、接尾辞 -JE でマークされた関係節および名詞化の用法を、現代のユカギール語と比較しながら分析を進めた。その結果、現在は少数の語彙化されたものにとどまる名詞化の用例が、19世紀末の資料中ではより豊富に見られること、19世紀末の資料中では、関係節化の際に -JE に続いて属格の -n/-d が現れる例が散見されることが分かった。このことから、-JE の元来の機能は名詞化であり、関係節化の機能は名詞化機能から派生された可能性があると言える。これに関して、論考をまとめ発表した。
 - 古い時期のコリマ・ユカギール語では、名詞化節における項の標示/動詞の一致が能格型アラインメントを示す例が散見され、能格型アラインメントの例がほぼ見られない現代語とこの点で大きく違っていることが分かった。また、能格型アラインメントは名詞化節に集中しており、ユカギール語がかつて節タイプによる分裂能格性をもつ言語であった可能性があると言える。これに関して論考をまとめ発表した。
- (2) 平成28年度
 - 19世紀末のテキスト約100編のメタデータ(調査地、滞在時期など)を整理した。また、焦点構文や従属節の分析の土台となる、分詞や動作名詞を含む文へのアノテーションに重点をおいてデータ整理を進めた。
 - 焦点構文について、現代のユカギール語と比較しながら分析を進めた。
 - ユカギール語資料の中に見られる動植物語彙を用いた比喩表現について分析を行った。

- ロシア、サンクトペテルブルクの東洋写本研究所において、Jochelson(1900)の手稿に関する調査を行った。

(3) 平成 29 年度

- ユカギール語原文テキストに対する文法情報のアノテーションを引き続いて進め、そのうち Jochelson (1900) 中の 4 編のテキスト、および研究代表者がこれまでのフィールドワークで収集したテキスト 10 編については、各文の統語構造を閲覧できる形で試験的にオンライン公開した。
<http://npcmj.ninjal.ac.jp/interfaces/cgi-bin/index.sh?db=kyt>
- 前年度に引き続き、焦点構文について、現代のユカギール語と比較しながら分析を進めた。焦点化が可能な文構成素に約 100 年前と現代の間で違いがあること、約 100 年前の資料には現代語では確認できない、疑似分裂文の例がわずかながら見られることが分かった。

(4) 平成 30 年度

- 形態情報を付与したテキストから、統語ツリーを生成するためのスクリプトの作成・改良を行った。
- 前年度まで行ってきた焦点構文に関する研究を論考としてまとめ、学術雑誌に発表した。
- 前年度に実施を見送った、ロシア、サンクトペテルブルクの東洋写本研究所におけるユカギール語資料の調査を実施した。19 世紀末に収集された語彙と用例を記したカード、未刊テキストの手稿を調査し、複写申請を行った。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 3 件)

Iku Nagasaki, The focus construction in early modern Kolyma Yukaghir, Gengo Kenkyu, 査読有, 154, 2018, 123-152

DOI: 10.11435/gengo.154.0_123

Iku Nagasaki, Relative clauses and nominalizations marked by the suffix -je in Kolyma Yukaghir, Linguistic Crossing and Crosslinguistics in Northeast Asia, 査読有, 2016, 137-151

長崎郁, コリマ・ユカギール語の非定形節における能格性、北方言語研究、査読有、6、2016、25-42

<https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/60790>

〔学会発表〕(計 7 件)

長崎郁, ユカギールの言語と文化、シベリアの文化に触れてみる(鶴見大学比較文化研究所) 2018

長崎郁, ユカギールの言語資料から見た社会と親族、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター、共同利用・共同研究「シベリア先住諸民族の言語資料から見た社会と親族」第 1 回研究会、2018

長崎郁, グロス付きテキストから統語情報付きテキストへ -ユカギール語を例に-, 科研費基盤研究(B)「シベリア少数言語の統語構造に関する類型論的研究: 従属節の構造と節連結を中心に」第 1 回研究会、2018

Iku Nagasaki, Ergativity in early modern Kolyma Yukaghir, The 28th Dulzon Readings, 2017

長崎郁, ユカギール語資料に見られる動物のイメージ、北方の言語と文化にかんするシンポジウム、2017

Iku Nagasaki, The structural properties of Kolyma Yukaghir's kakarimusubi-like construction, Kakarimusubi from a Comparative Perspective, 2015

Iku Nagasaki, Ergativity in Kolyma Yukaghir nominalizations, Northeast Asia and the North Pacific as a Linguistic Area, 2015

〔図書〕(計 2 件)

_____, 科学研究費補助金基盤研究(B)「シベリア少数言語の統語構造に関する類型論的研究: 従属節の構造と節連結を中心に」研究班, _____, 2018, 226

永山ゆかり・長崎郁(編著)、東海大学出版会、シベリア先住民の食卓、2016、220

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：
ローマ字氏名：
所属研究機関名：
部局名：
職名：
研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。